

都市再生整備計画 フォローアップ報告書

船小屋駅周辺地区

平成24年10月

福岡県筑後市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4ー① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指 標		単位	従前値	目標値	事後評価					フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
					評価値	見込み・確定の別		目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	船小屋駅の乗降客数	人／日	509	2,036	2,151	確定		○	あり	1,370	H24年2月	△	需要予測調査の乗降客数は、GDPの伸びを実質1.5%の見通しで推計しており、経済状況の変化を目標値に反映できなかった。	☒ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	目標には届かなかったが、新幹線開通前後で乗降客数は187.8%増加している。今後も駅周辺の整備や在来線との連携、他の公共交通機関との連絡の強化等の施策を継続して行い、利用者数を増加させていく必要がある。
指標2	筑後広域公園の利用者数	人／月	1,880	2,256	2,579	確定		○	あり	2,895	H24年4月	○		☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	バス路線の整備や駐車場の増設により交通結節機能が高まり、イベント等の呼び込み効果も相まって利用者の増加につながった。
指標3	船小屋温泉郷への観光入込客数	千人／年	185	222	167	確定		△	あり	154	H24年8月	△	平成22年度には減少傾向に歯止めがかかると見込んでいたが、経済情勢等により評価値を下回った。	☒ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	平成22年度には146.8千人まで減少したが、筑後船小屋駅開業後の平成23年度は確定値のとおりの回復を見せており、回遊交流施設(入浴施設・売店)の整備にともないさらに増加が見込める。
事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入										※フォローアップの必要のある指標について記入				※全ての指標について記入	

様式4ー② その他の数値指標の確定

指 標		単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
					評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
その他の数値指標1	船小屋温泉花火大会の観客者数	百人	141	/	200	確定		/	350	H24年8月	/		☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	駐車場の整備や公共交通機関との連携を強化したことで観客者数の増加につながり、船小屋地区全体の集客にもつながった。	
						見込み	●	/							
その他の数値指標2	なし		/	/		確定		/		H 年 月	/		☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる		
						見込み		/							
その他の数値指標3	なし		/	/		確定		/		H 年 月	/		☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる		
						見込み		/							
事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入										※フォローアップの必要のある指標について記入				※全ての指標について記入	

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4ー③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5ー③に記載した 今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	交通結節機能の有効活用	・駅西側での駐車場の整備を行い、暫定駐車場(100台)の供用を開始した。	・駐車許可台数を確保したことで、駅前駐車場の台数不足が解消され、パークアンドライドによる交通結節機能が高まった。	・暫定駐車場から機能を移行する駐車場の整備を行い、交通結節機能の維持・活用を行っていく必要がある。
	船小屋地区活性化委員会による地区活性化の取り組み等との連携	・イベント等で船小屋もてなし隊によるおもてなしをおこなった。	・観光客に対して、船小屋温泉郷への興味関心を向上させた。	・船小屋地区活性化計画書を基に活性化方策の実現を支援する。
	温泉協会等との連携による宿泊客の増加	・船小屋温泉協会と市、商工会議所が共同でイベントを開催した(筑後船小屋花火大会) ・筑後広域公園で行われるイベントで、船小屋温泉郷のPRを行った。	・イベントでのPRにより、会場だけでなく船小屋地区全体への集客につながった。	・福岡都市圏などでのPR活動を推進していく。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	駅東側の八女市や、観光都市である柳川市等が位置する駅西側方面からのアクセス性の向上	・駅開業とともに、駅北・東方面(久留米市、八女市等)からの交通アクセス向上を目的に路線バス・久留米～船小屋線(50番線)を駅まで延伸した。 ・駅西方面(柳川市等)からの交通アクセス向上を目的に路線バス・船小屋～柳川線を開設した。	・路線バス開設1年目であり評価は難しいが、開業からH23年9月末までの推定利用人員は、50番線で4393人、船小屋～柳川線で7697人となっており、利用は進んでいない。	・両バス路線の周知を筑後市内はもとより、市外に向けても効果的に発信していく必要がある。
	温泉交流拠点施設等の充実	・休憩(温泉)施設を整備し、県が整備した売店と共に指定管理者制度を適用して運営を開始した。 ・国道209号線沿いに通行車両向けの施設への誘導標識を設置した。	・温泉施設開業月の売店と温泉施設の入場者数は、約37,000人を数え、賑わいの場となっている。	・施設単体での賑わいだけではなく、周辺地域や公園内の他の施設と連携させ、観光交流拠点となることを目指す。また、新幹線駅から施設への分かりやすい誘導サインを充実させる必要がある。
	筑後船小屋駅周辺の農地の土地利用方策の検討	・筑後船小屋駅周辺まちづくり構想策定会議による市民を交えたワークショップ等を通じて、筑後船小屋駅周辺まちづくり構想を策定した。	・まちづくりの将来ビジョンを周知し、今後の土地利用の考え方・推進方策の考え方を市民と共有することができた。	・ビジョンの実現に向けた施策を実施するための手法を検討し、実施計画の策定を目指す。

事後評価シート 添付様式5ー③から転記

様式4ー④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画(第2回変更)

ふ な ご や え き し ゅ う へ ん ち く
船小屋駅周辺地区

ふ く お か け ん ち く ご し
福岡県 筑後市

平成23年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	福岡県	市町村名	筑後市	地区名	船小屋駅周辺地区	面積	122 ha
計画期間	平成18年度～平成22年度	交付期間	平成18年度～平成22年度				

目標
大目標：九州新幹線船小屋駅、筑後広域公園及び船小屋温泉を生かした賑わいの再生
目標1：広域交流拠点の形成・・・交通結節機能の強化及び駅と駅周り施設、公園との調和を図ることによる広域交流拠点の形成
目標2：船小屋温泉の活性化・・・観光拠点の魅力向上による船小屋温泉の活性化

目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況
●本市は、福岡県南部に広がる筑後平野の中央に位置し、多彩な農業と伝統的な地場産業が両立した田園都市である。 ●その中で当該地区は、豊かな自然に恵まれ、市の南玄関口であるJR船小屋駅及び県内でも有数の温泉地である船小屋温泉郷を有し、第三次筑後市総合計画において『観光拠点』として位置付けられている。 ●しかしながら、現在の船小屋駅周辺地区は都市基盤整備の遅れや観光客への情報提供の不足、活性化のための体制が確立していないこと等により、温泉地としての活気が非常に乏しく、その貴重な観光資源を十分に生かしきれていない。 ●当該地区西側には、JR船小屋駅があるが、交通結節点としての機能も十分でなく、船小屋温泉との十分な連携が図られていない状況である。 ●当該地区に隣接する矢部川を中心に「豊かさを体感できる公園」をメインテーマに筑後地域の振興を目的とした広域型の都市公園である県営筑後広域公園が計画され、現在整備が進められており、これを起爆剤として船小屋温泉の活性化が求められている。 ●また、九州新幹線「博多～新八代」間の整備（平成22年度末頃完成予定）が進められているが、本地域を中心とした矢部川流域圏の産業・経済の浮揚を図るため、本市を含む周辺14市町村で「九州新幹線船小屋駅設置促進期成会」を設立し、駅設置の要望活動を行ってきた。平成16年6月には、新幹線船小屋駅が設置されることが決定され、広域交流拠点としての役割が求められていると同時に地域経済の発展が期待されているところである。 ●さらに、新幹線新駅とそれを囲む筑後広域公園が全国に例のない「公園の中の駅」として調和した魅力あるものとなるよう学識経験者や地元代表で構成される「公園の中の船小屋駅検討委員会」等で検討を行っている。
課題
当該地区には、船小屋温泉が存在するにもかかわらず、その貴重な観光資源を生かしきれていない状況である。新幹線船小屋駅設置及び筑後広域公園の整備も進められており、非常に高いポテンシャルを持った地域であるにもかかわらず、その受け皿としての機能を十分に発揮できるようなまちづくりを行わなければ、その貴重な観光資源を生かしきれない。よって、新幹線船小屋駅開業に合わせ、以下の施策を早急に進めていく必要がある。 ●新幹線開業時の駅利用者増大に対応した駅前広場やアクセス道路、筑後広域公園のアクセス道路等の整備及びJR鹿児島本線船小屋駅の移設を行い、交通結節機能やアクセス機能の強化を図る。 ●新幹線開業をにらんだ観光施策として、観光スポットとしての公園整備及び観光案内サイン設置による情報提供を行うとともに、船小屋地区活性化委員会（仮称）等の組織を立ち上げ、船小屋地区の活性化を図る。
将来ビジョン（中長期）
平成15年5月に「九州新幹線船小屋駅設置促進期成会」において策定した「九州新幹線船小屋地区新駅周辺整備構想」においては、船小屋駅周辺整備地域の基本方針として以下を掲げている。 ●豊かな自然公園の中でみんなが元気になるまちづくり ●圏域の特性を生かした先進的な農業・健康産業の支援・育成 ●大都市圏通勤者のためのゆとりある居住空間の創設 ●広域的な交通・観光・情報ネットワークの形成

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
船小屋駅の乗降客数	人／日	1日あたりの新幹線及び在来線船小屋駅の乗降客数 (新幹線船小屋駅開業時の見込み値)	駅利用者が増えることにより当該地区での広域からの人の交流の機会が増えることから、広域交流拠点の形成を示す指標として設定する。 船小屋駅の乗降客数が現状の4倍以上となることを目標とする。	509	H16	2,036	H22
筑後広域公園の利用者数	人／月	1ヶ月あたりの筑後広域公園の中にある多目的広場等の施設の利用者数	公園利用者が増えることにより当該地区での広域からの人の交流の機会が増えることから、広域交流拠点の形成を示す指標として設定する。 筑後広域公園の利用者数が現状の1.2倍以上となることを目標とする。	1,880	H17	2,256	H22
船小屋温泉郷への観光入込客数	千人／年	県が行う「観光入込状況調査」における船小屋温泉郷の1年あたりの観光入込客数	船小屋温泉利用者が増えることにより、当該地区での賑わいの機会が増えることから、船小屋温泉の活性化の指標として設定する。 船小屋温泉郷の観光入込客数が現状の1.2倍以上となることを目標とする。	185	H16	222	H22

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
■ 整備方針1(交通結節機能の強化) ・新幹線駅及び在来線駅利用者の利便性を向上させるため、駅前広場を整備する。 ・マイカーでの駅へのアクセス性を向上させるため、パークアンドライド駐車場を整備する。 ・自転車での駅へのアクセス性を向上させるため、サイクルアンドライド駐輪場を整備する。 ・駅へのアクセス性を向上させるとともに、周辺住民の歩行者等が安全で安心して歩けるよう、自転車歩行者道付きの道路を整備する。 ・在来線と新幹線の乗り換えの利便性の向上させるため、在来線駅の移設及び両者を連絡する経路に歩行者用シェルターの設置を行う。		道路事業(基幹事業／船小屋駅前広場・・・市) 地域生活基盤施設(基幹事業／(仮)船小屋駅駐車場・・・市) 地域生活基盤施設(基幹事業／(仮)船小屋駅駐輪場・・・市) 道路事業(基幹事業／3・4・14船小屋駅前線・・・市、関連事業／主要地方道八女瀬高線・・・県) 高質空間形成施設(基幹事業／歩行者用シェルター・・・市) 提案事業(地域創造支援事業／JR鹿児島本線船小屋駅移設・・・市) 九州新幹線建設事業(関連事業・・・鉄道・運輸機構)
■ 整備方針2(駅と駅周り施設、公園との調和) ・広域交流拠点としてのシンボル性を備え、「公園の中の駅」にふさわしい互いに調和の取れた駅と駅周り施設、公園を整備する。 ・駅周辺に安全に安心して人が集まれる魅力ある空間として活用するための方策を検討・実行するための組織を立ち上げる。		道路事業(基幹事業／3・4・14船小屋駅前線、船小屋駅前広場・・・市) 県営筑後広域公園事業(関連事業・・・県) 高質空間形成施設(基幹事業／駅前広場モニュメント、歩行者用シェルター、公衆トイレ(身障者用含む)・・・市) 提案事業(まちづくり活動推進事業／船小屋地区活性化委員会(仮称)運営・・・市) 九州新幹線建設事業(関連事業・・・鉄道・運輸機構)
■ 整備方針3(観光拠点としての魅力向上) ・船小屋鉱泉場等を利用した観光スポットとしての魅力を高め、地区住民の交流の場を提供するため、現在ある船小屋鉱泉源公園を拡張する。 ・船小屋駅周辺地区の情報を分かりやすく提供するため、駅前広場やアクセス道路、船小屋温泉郷等に観光案内サインを設置する。 ・船小屋温泉と新幹線駅、筑後広域公園を利用した船小屋駅周辺地区の活性化を図る方策を検討・実行する組織を立ち上げる。		公園事業(基幹事業／船小屋鉱泉源公園・・・市) 地域生活基盤施設(基幹事業／観光案内サイン設置・・・市) 提案事業(まちづくり活動推進事業／船小屋地区活性化委員会(仮称)運営・・・市)
その他		
■ 船小屋地区活性化委員会(仮称) ○検討内容案 ・船小屋温泉、新幹線船小屋駅及び筑後広域公園を利用した船小屋駅周辺地区の活性化方策の検討 ・具体的な施策及び事業、イベント等の計画策定 ・船小屋駅周辺地区の住みよいまちづくりのための方策検討 ○メンバー案 ・船小屋温泉協会代表者 ・船小屋旅館代表者 ・船小屋を考える会 ・船小屋地区商店代表者 ・船小屋公民館役員代表者 ・船小屋地区事業所代表者 ・水洗校区民会議代表者 ・船小屋、尾島、北長田、津島東、津島西、志の各行政区代表者 ・先進の温泉活性化地区の代表者 ・旅行代理店代表者 ・観光コンサルタント会社 ・筑後商工会議所 ・市観光協会 ・市民公募者 ・市外公募者 ・市商工観光課		

都市再生整備計画の区域

船小屋駅周辺地区(福岡県筑後市)	面積	122 ha	区域	筑後市大字 津島・尾島・北長田・鶴田・志 地内
------------------	----	--------	----	-------------------------

